

ポイント

- ゆっくりと約2秒かけて2回吹き込む。
- 吹き込む量は、傷病者の胸が軽く膨らむ程度〔500ml～800ml（10ml／体重1kg）〕とする。
- 吹き込んだときにスムーズに吹き込みができなかった場合は、もう一度首をもどして、気道確保をやり直し、息を吹き込む。
- どうしても口対口人工呼吸をすることに抵抗がある場合は、ハンカチを傷病者の口に置いて行ってもかまわない。また、携帯できる簡易型の人工呼吸用マスク（一方向弁付呼吸吹き込み用具）を持っていると便利である。
- もし、傷病者に傷や出血があってできない場合や、救助者の皮膚や口の周りに傷がある場合には、口対口人工呼吸を行わないで心臓マッサージのみを行ってもよい。



一方向弁付呼吸吹き込み用具

6 循環のサインを調べる（心臓の拍動の状態を調べる）

- 傷病者の口に耳を近づけて、次の徴候（「循環のサイン」）の有無を調べる。
 - 呼吸をしているか？（目で胸の動きを見たり、呼吸の音を聞く）
 - 咳をしているか？
 - 体に何らかの動きが見られるか？
- 循環のサインは、10秒以内に調べる。

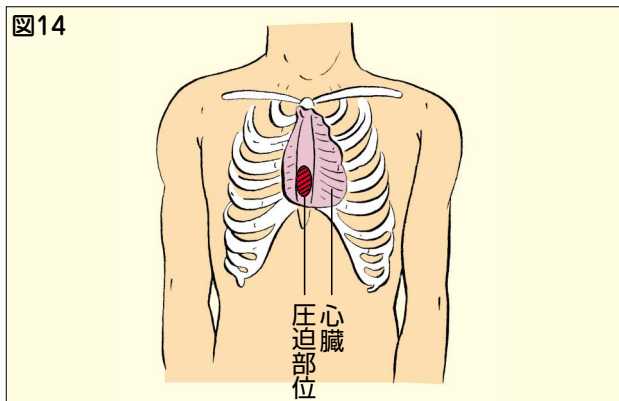
ポイント

- これらの徴候がなかったり、明らかでない場合には、循環のサインなしと判断し、直ちに心臓マッサージを開始する。
- 徴候のいずれかが見られる場合は、循環のサインがあり、心停止でないと判断する。

7 心臓マッサージ（胸骨圧迫心臓マッサージにより、酸素の含まれた血液を循環させる）

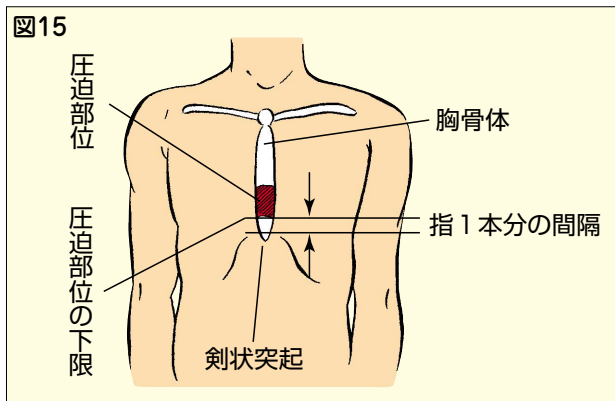
- 循環のサインがない場合は、直ちに心臓マッサージを開始する。

図14



心臓の位置

図15



圧迫部位